

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

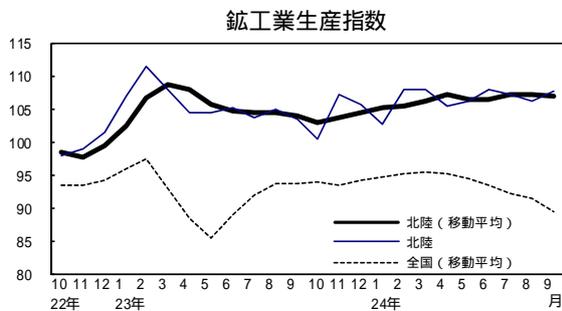
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 8 月)	今回 (平成 24 年 11 月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	弱含み	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
個人消費	緩やかな増加傾向	弱い動き	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	改善	弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、自動車向けの金属加工機械や金属工作機械等が低調だったこと等から減少した。電子部品・デバイスは、引き続きスマートフォン向けが好調を維持したこと等から増加した。化学は、後発医薬品(ジェネリック医薬品)の生産が堅調だったこと等から増加した。金属製品は、建築用金属製品(アルミ等)が低調だったこと等から減少した。繊維は、エコカー補助金による政策効果の一巡等を背景に、非衣料品向け(自動車向けの内装材等)が低調だったこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	16.2	4.0	4.1	-	-
電子部品・デバイス	15.8	4.9	11.0	-	-
化学	14.5	1.1	2.0	-	-
金属製品	9.2	5.7	1.0	-	-
繊維	8.5	2.6	4.4	-	-
鉱工業	100.0	0.2	0.6	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

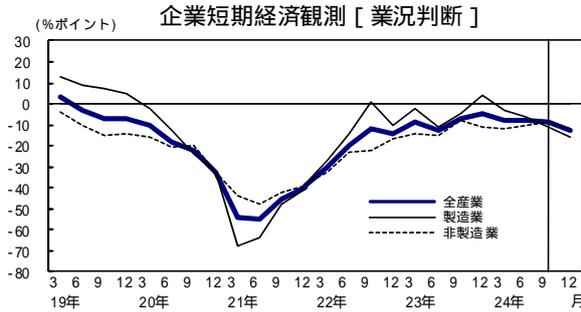
2. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

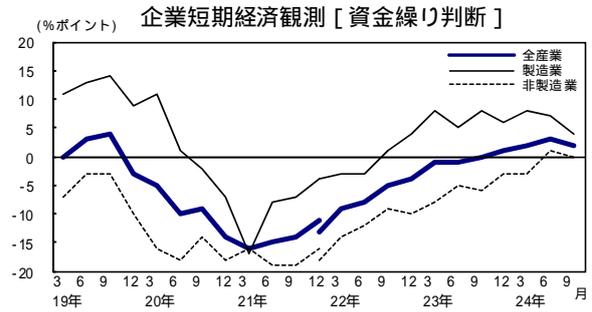
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

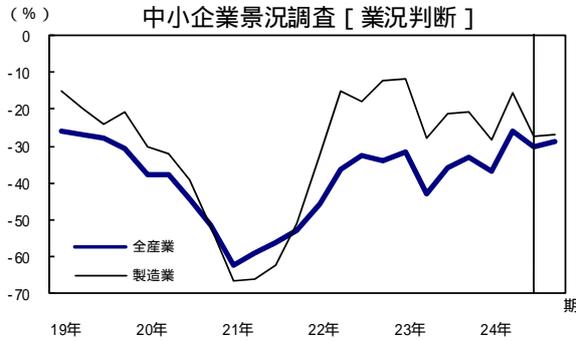
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年12月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

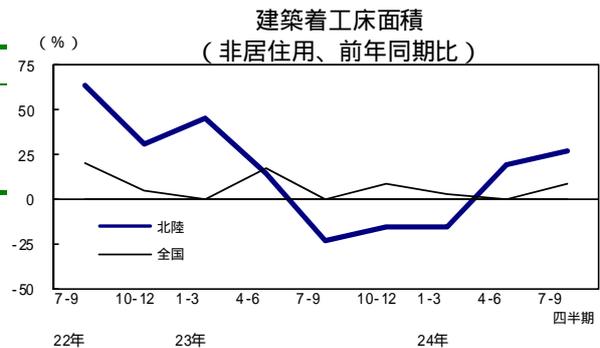
「ここへ来て、日中問題の影響で中国への販売が厳しくなっている。実際に中国国内大手チェーン店向けの商品が、納品直前で数億円レベルのキャンセルとなった。また欧州については市況、為替の影響で厳しい状態が続いている(精密機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 24年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績	24年度計画
全産業	3.3	16.4 (1.2)
製造業	6.5	16.8 (3.0)
非製造業	6.4	15.0 (5.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

大型小売店販売額

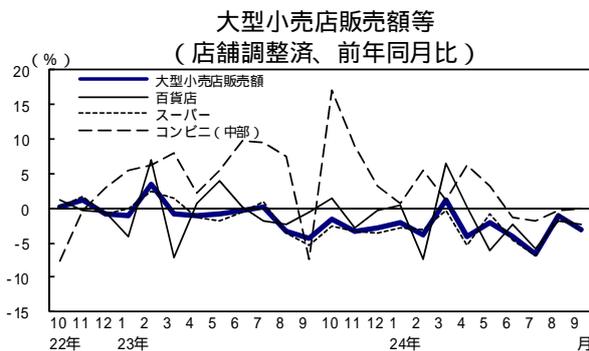
大型小売店販売額は、前年同期比で3.7%減、前期比で0.3%減となった。

百貨店は、7月は、中旬ごろまでの低気温やクリアランスセールの影響等から前年を下回った。8月は、気温の上昇から秋物衣料が振るわなかったこと等から前年を下回った。9月は、残暑の影響により秋物衣料の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。

スーパーは、残暑の影響で秋物衣料が振るわなかったほか、野菜の価格低下等で食料品が伸び悩んだこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「天候がよく、日中は比較的温かいいためか、秋冬商品の動きが鈍い。機能性肌着に動きが見られるが、前年よく動いた湯たんぽは動いていない。必要な物だけを買ひ、ついで買いの傾向は見られなくなった(その他専門店[医薬品])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	2.5	1.6	3.4	3.7
百貨店(*1)	0.6	0.0	2.8	3.6
スーパー(*1)	3.2	2.0	3.6	3.7
大型小売店(*2)	1.4	0.6	1.9	2.7
(季節調整値)(*3)	(0.5)	(0.0)	(1.5)	(0.3)
乗用車(*4)	22.6	50.2	64.8	17.7
(季節調整値)(*4)	(2.1)	(24.2)	(10.4)	(15.5)

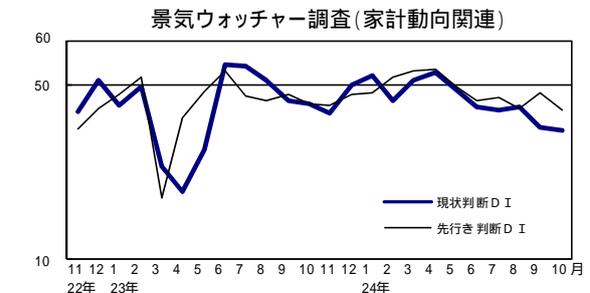
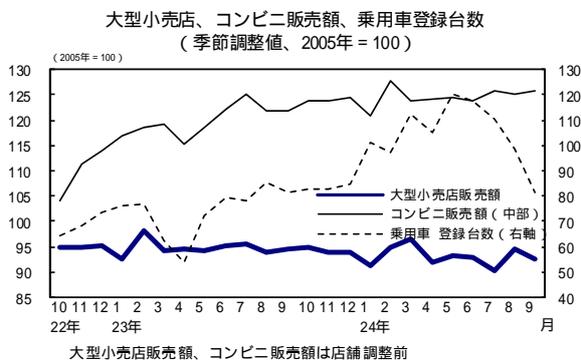
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%) 7-9月は速報値

2. 店舗調整前、前年同期比(%) 7-9月は速報値

3. 店舗調整前、前期比(%) 7-9月は速報値

4. 乗用車は新規登録・届出台数

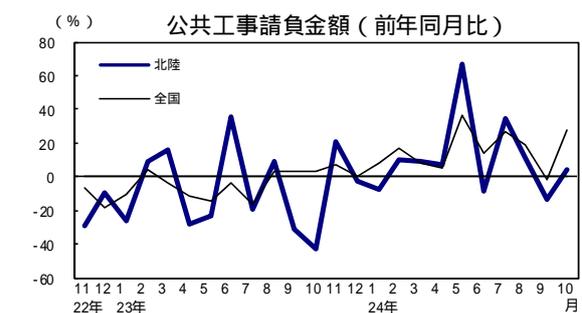
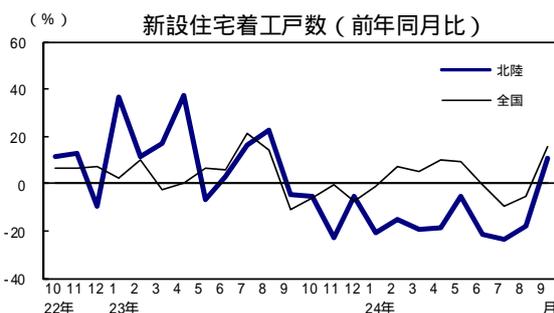
(上段:前年同期比、下段:前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度を上回っている。

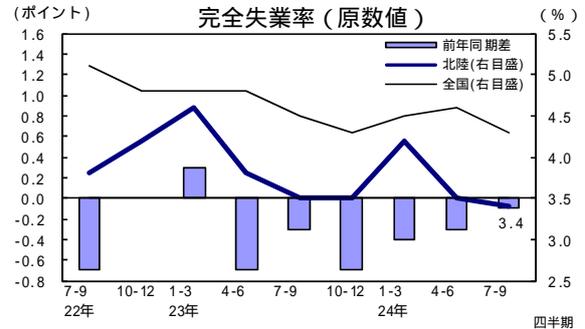
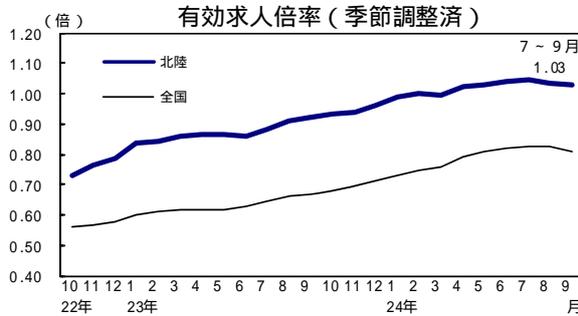


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

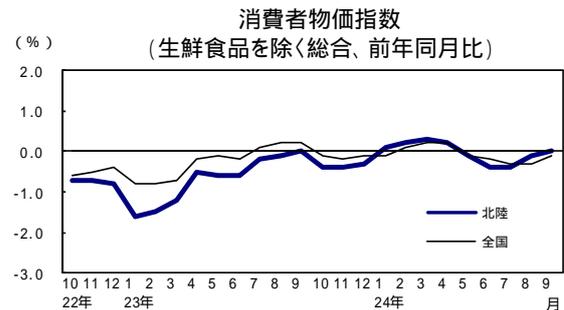
「人材紹介も派遣も求人数が増えてこない。受注があっても高度な職種が多く、マッチングが非常に難しい (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年10-12月	24年1-3月	4-6月	7-9月	24年10月
倒産件数	70	87	78	82	40
(前年比)	9.1	11.5	27.1	13.9	66.7
負債総額	238	184	143	397	101
(前年比)	15.6	6.2	36.0	97.4	407.1



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・国内・輸出とも受注環境が厳しく、受注の前年比大幅減が続いている (繊維工業)

<先行き>

・円高や中国、欧州の情勢不安などにより、事業所から求人を見合わせる声が聞かれ、今後明るい材料が聞かれないことから、状況は悪くなっていくのではないかと懸念される (職業安定所)

